

補助事業番号 2024M-236
補助事業名 2024年度 福祉機器の整備 補助事業
補助事業者名 社会福祉法人 常山福社会

1 補助事業の概要

年々重度の身体介護を要する利用者様が増えている一方で介護業界の人手不足は著しく、業務にあたる介護職員の負担は高まるばかりです。人手不足を理由に利用者様に不利益を生じさせないよう、継続して良質なサービスを提供していくには介護ロボットのようなテクノロジーを積極的に活用していく必要があると考えております。

特別養護老人ホーム グランデパールではこのような現状を解決するために公益社団法人 JKAが行っている補助事業を活用し、見守り支援システム（eライブ）の導入を決定致しました。

現在、定員60名（1ユニット：10名）に対して20名を対象に（2ユニット：20名）見守り支援システム（eライブ）を使用し、見守りを行っております。段階的に台数を増やしていき、将来的には全居室への導入を考えております。

2 予想される事業実施効果

- ・見守りロボットを活用することで、安全の担保はもちろんのこと、過度な見守りや巡回で入居者様の睡眠を妨げることが予防できる。睡眠は健康にとって非常に重要な要素であり、睡眠不足は様々な健康問題を引き起こす可能性があるため、見守りロボットの導入により、入居者様の睡眠が妨げられることがなくなることは、非常に大きな利益となる。

- ・睡眠状況やバイタル値を正確に把握することができるため、健康状態を把握しやすくなる。

- ・見守りロボットを活用することで、職員の負担軽減が期待できる。見守りロボットが常に入居者様の状態を確認しているため、夜間の見守りや巡回の頻度が減らせ介護スタッフの業務負担が軽減できる。年々、身体介護が必要な高齢者が増えており、介護スタッフは非常に重労働、かつ長時間労働や夜間勤務などが多いため、業務負担の軽減は非常に大きなメリットとなる。さらに、入居者様の動きを予兆できるため、入居者様がトイレ等に行きたいタイミングで適切な介入ができ、入居者様を主体とした生活のサポートができる。また、適切な介入により、転倒・転落等の介護事故を未然に防げる確率が高まる。これは、入居者様だけでなく職員にとっても安心できることである。

- ・既存のセンサーではコールが反応すると必ず訪室しなければならなかったが、見守りロボットでは「訪室するべきか」「様子を見るべきか」の判断ができる。また、既存のセンサーのように反応する度に訪室する必要がないため、入居者様からみて「わずらわしさ」が軽減できる。

- ・万が一、転倒・転落事故が発生した場合でも、介護ロボットが収集したデータに基づいて、迅速かつ正確に対策を講じることができる。これにより、事故防止のための効果的な施策を

立案することが可能となる。

・職員の業務負担が軽減されることで、空いた時間を利用して、より質の高い介護サービスを提供することができるようになる可能性もある。例えば、入居者様とのコミュニケーションを豊かなものにしたたり、レクリエーション活動を充実させることができると考える。これらは利用者のQOL（生活の質）を向上させる効果が期待できる。また、職員自身のスキルアップや研修の時間を確保できることで、職員自身のキャリアアップやスキル向上に繋がり、ひいてはそれが入居者様の利益にもなると考える。

・介護負担の軽減ができることで、介護職員の離職率を緩和し、安定したサービスを提供することができる。

・見守りロボットがあることで入居者様の状況だけでなく、虐待や不適切なケア等も間接的な予防効果が期待できる。

・職員の負担が軽減でき、離職率が低下する。これにより質の高いサービスを安定かつ継続的に提供することができる。

3 本事業により導入した機器

① eライブ コンプリートセット

従来の離床センサーは、入居者のタイムリーな介助につながる反面、状態把握や訪室判断が難しい点に課題があり、一方、見守りセンサーでは状態把握はできるが、転落・転倒に対するタイムリーな通知と対応に課題があった。eライブは高齢者の状態把握や転倒の予見につながる見守りシステムと、転倒・転落を瞬時に知らせる離床センサー機能を融合し、現場に欲しいニーズをひとつにした次世代の製品である。



4 事業内容についての問い合わせ先

団体名：	社会福祉法人 常山福祉会 特別養護老人ホーム グランデパール
住所：	〒706-0132 岡山県玉野市用吉1676-1
代表者：	施設長 大塚 教生
担当部署：	事務（ジム）
担当者名：	介護支援専門員 伊達 翔哉
電話番号：	0863-73-5020
F A X：	0863-73-5021
E-mail：	gd1166@cap.ocn.ne.jp